

6. 他事業との関係(日本海溝海底地震津波観測網)

平成22年度末時点

- 気象庁:防災情報に活用するための**監視**(60km以下の間隔で配置) 全235箇所
- 防災科研:我が国の地震研究の中核となる**基盤的な最先端観測研究**(約20km間隔で配置) 全861箇所
- 大学:リアルタイムの波形データを用いた**最先端の観測研究**(研究目的に応じて配置) 全256箇所
- その他の機関 全68箇所

奄美・沖縄諸島

日本海溝沿いは
ほとんど観測点無し

地震計設置箇所
陸域:1378箇所
海域:42箇所

水圧計 2箇所
釧路・十勝沖 3箇所
(海洋研究開発機構)

三陸沖 3箇所
(東京大学・東北大学)

水圧計 2箇所

注:東北地方太平洋沖地震のため地上局が流出し欠測中

房総沖 4箇所
(気象庁)

水圧計 3箇所

初島沖 1箇所
(海洋研究開発機構)

水圧計 1箇所

相模湾 6箇所
(防災科学技術研究所)

水圧計 3箇所

伊豆半島東方沖 3箇所
(東京大学)

水圧計 0箇所

東海・東南海沖 9箇所
(気象庁)

水圧計 4箇所

紀伊半島沖 11箇所
(文部科学省)

水圧計 11箇所

室戸岬沖 2箇所
(海洋研究開発機構)

水圧計 2箇所

DONET2敷設予定箇所

伊豆・小笠原諸島

目的に沿って分担して設置。陸域に比べ、海域は観測点数が圧倒的に少ない

6. 他事業との関係(日本海溝海底地震津波観測網)

- ・**気象庁**では、**現存の津波注警報の高度化**を目指し、新規に設置するブイ式津波観測システム)及び既設の津波観測施設の観測結果を用いて、**初期波源分布の推定を行い、沿岸の津波の高さを推定するシステムを開発**する。
- ・**文部科学省**では、稠密に展開した地震・津波観測網を用いて、震源域直上における水圧計を用いた**発生直後の津波の瞬時把握**、津波の**面的把握**等の研究・開発を行い、**全く新しい津波情報を提供するシステム(最大波高、最大波高の到達時刻等)を作成**する。

※下図は模式的な図

気象庁

文部科学省

